

2012年7月2日

千葉大学 上野信雄

高等学校教育部会（第10回）に持ち越された検討事項に関する意見
検討依頼事項

I. 意見の場所：

第9回配付資料1「課題の整理と検討の視点（案）」では：

【13 ページ以降】5.各種の振興方策（検討事項例）、⑤指導力のある教員の育成と学校の組織運営体制の充実

第10回への事前配付/修正後の資料「課題の整理と検討の視点（案）」では：

【16 ページ以降】6.各種の振興方策（検討事項例）、④指導力のある教員の育成と学校の組織運営体制の充実

II. 理由・背景

既に上記⑤で取り上げられているように高校教員の育成は様々な面から不可欠です。

例えば、(i)指導法についての向上、(ii)教員自身の専門知識に関する向上、(iii)高校教育が目標とする人材像について考え得る力の向上、すなわち、①日本国として、②自治体として、③社会として、④各学校として、⑤保護者として、⑥生徒自身として、目標とするもの・希望があり、これらのバランスについても考え得る力の向上、など、経験レベルに応じた育成が上げられます。

多くの高校が現存する状況で、生徒を近未来の「主権者」足るべく育成することが高校教育において①～⑥のそれぞれが共有する必要条件と捉えることができますが、これに加える教育の十分条件として歴史的には各学校において異なる教育が設定され実践されてきたことは自然と思われまます。(a)教育政策を検討する責任を分担するのは、国の現況、国や社会の将来のあり方や、時代の要求を踏まえた上で、この十分条件の部分についても考えうる力をもつ必要があります、また、(b)教育現場の教員は、例えば科学・技術分野においては特にその進歩を専門知識として継続的に吸収し、且つその理解に必要な基礎を勉強するなどして教育活動に反映することが必要でしょう。また(b)教育現場の教員といえども、将来、(a)教育政策を検討する責任を分担する者への候補者でもあります。特に(b)の教員について、その育成---例えば「研修制度」による---が形骸化し、実質的にあるいは有効に機能していないことが現状と思われまます。

一人の教員は数十年にわたってその力を社会のために活用できるので、教員を継続

して育成する重要性と緊急性については今更議論の余地はないと言って良いと思われ
れます。ゆとり教育で授業時数が減少した問題もあるでしょうが、生徒が自ら勉強し
なくなったことも含め、「生徒の活力の低下は、教員の活力の低下とそれを改善する
努力が充分でなかった結果」でしょう。

III. 検討依頼事項

第 10 回高等学校教育部会で論議される「6.各種の振興方策（検討事項例）/改訂版
資料」では、上記を反映して、17 頁の④において「指導力のある教員の育成と学校の
組織運営体制の充実」が上げられています。しかし、研修制度の実施方法など—各高
校や教育委員会事務局の組織運営法にも関連する—についてはむしろ「改善」と記述
した方が将来へ向けてより適切と思われれます。いくつかの箇所について充実に加えて
「改善」も併用することをご検討いただければと思います。

参考：なかなか難しいことですが、例えば以下の赤字部が考えられますので、ご検討
いただけませんか。

⑤指導力のある教員の育成と学校の組織運営体制の改善と充実

- ・ 21 世紀を生き抜く力を育成する新たな学びや各学校の目標とする人材像に対応し
た指導力及び高等学校教育における諸課題に対応可能な力量を確実に身に付けるた
め、教員養成の修士レベル化や教育委員会と大学との連携
- ・ 協働などによる研修の充実をはじめ、教員の資質能力の総合的向上方策の改善と推
進
- ・ 教職員の負担を軽減し、校務の効率化等の推進や授業の改善等の教育内容・方法の
充実に取り組むための研修システムの改善と研修の充実
- ・ 校長裁量予算の導入やマネジメント力を身に付けるための管理職としての職能開発
のシステム化の推進等を通じ、思い切った学校運営を可能とするための管理職のマネ
ジメント能力の向上
- ・ 理数系の人材や英語力のある人材等、様々な分野から適性のある優秀な人材の採用
や参入を促進する仕組みの構築
- ・ 本人の適性や学校の特性に応じ、長期的な方針に基づく学校運営が可能となるよう
な柔軟な人事配置等

以上よろしくお願い致します。